

花きをめぐる情勢

花き産業振興室



いいこと
あった日、
花を買う。

花っていいよね。キャンペーン

平成 2 1 年 4 月

農林水産省

目次

概要

1	花き産業の国際比較	1
2	花き産業の位置づけ	2
3	花きの流通経路	3
4	需給状況(1)	4
	需給状況(2)	5
5	輸入及び輸出の状況(1)	6
	輸入及び輸出の状況(2)	7
6	生産の状況(1)	8
	生産の状況(2)	9
	生産の状況(3)	10
7	流通の状況(1)	11
	流通の状況(2)	12
8	消費の状況(1)	13
	消費の状況(2)	14

施策の方向

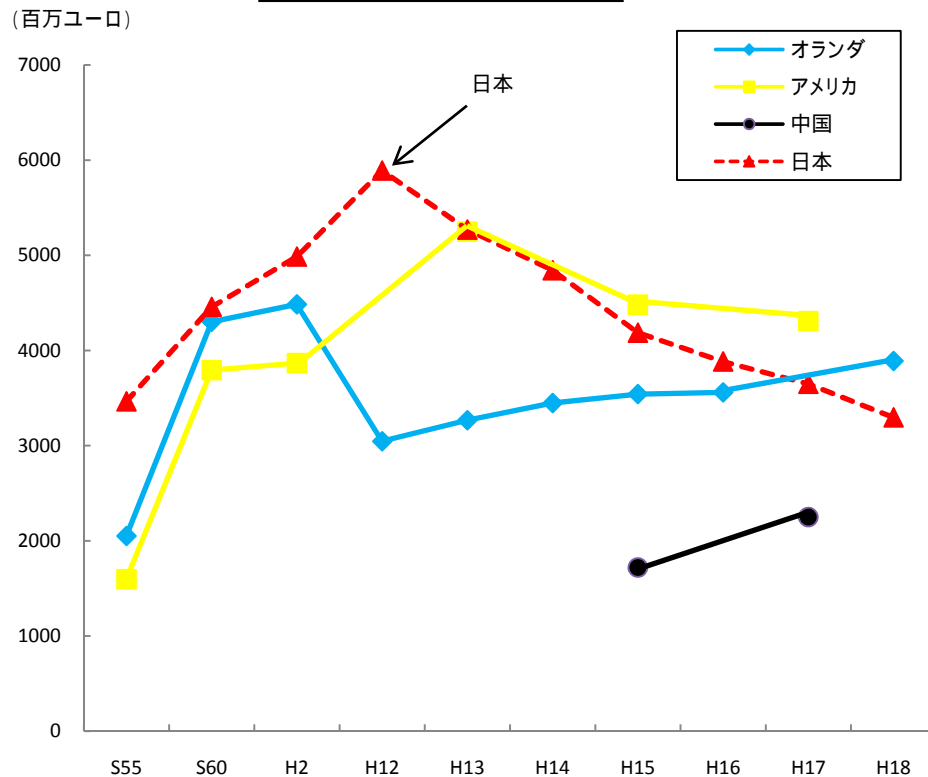
1	花を暮らしに取り込む活動の推進(1)	15
	花を暮らしに取り込む活動の推進(2)	16
2	競争力強化に向けた花き産地の生産供給体制の確立(1)	17
	競争力強化に向けた花き産地の生産供給体制の確立(2)	18
	競争力強化に向けた花き産地の生産供給体制の確立(3)	19

概要

1 花き産業の国際比較

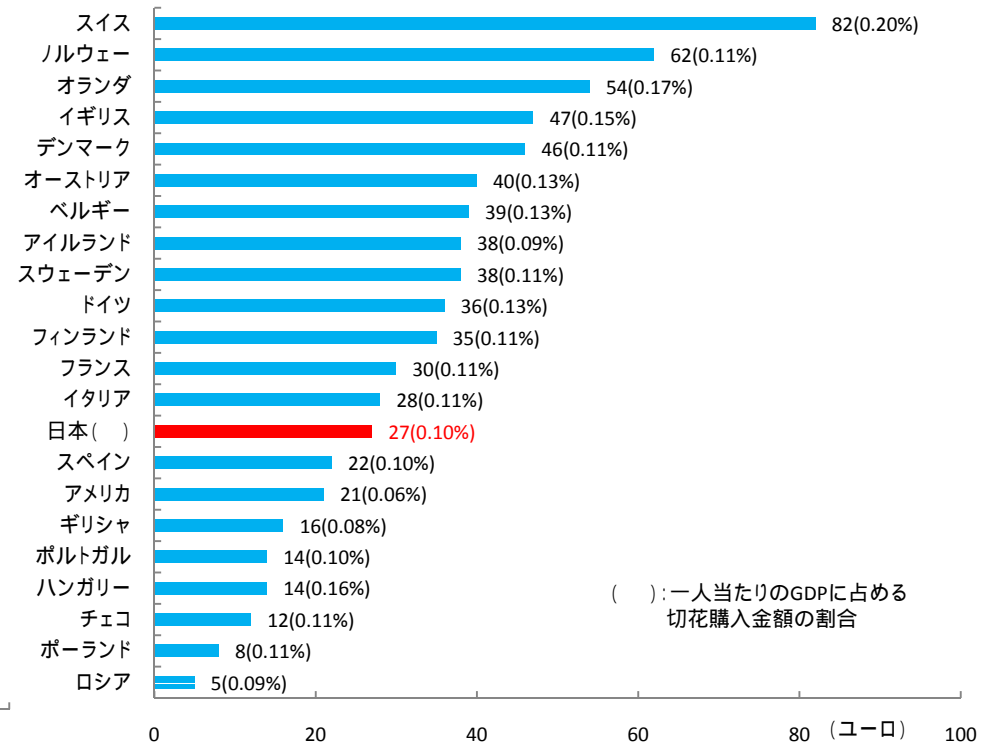
我が国の花き生産額は縮小傾向にあるものの世界第3位。
 我が国の切花一人当たり消費額は、もっとも多いスイスの3割程度で、多くの先進国を下回っている。一人当たりのGDP比で見ても最低レベル。1年に1度でも切花を購入した世帯は4割(. 8 . (1)参照)。

国別花き生産額



資料：(財)日本花普及センター「フラワーデータブック」
 農林水産省：「花木等生産状況調査」
 農林水産省：「生産農業所得統計」

国別切花一人当たり消費額と一人当たりのGDP比支出割合



資料：「hbag bloemen en planten kengetallen 2007」
 ()ただし、日本の消費額については、家計調査年報(平成18年)「総世帯(全世帯)」を引用
 「税関長公示レート(年平均)2006年」、総務省「国民経済計算(2006)」
 注：一人当たりの購入金額は、2006年(平成18年)の金額

2 花き産業の位置づけ

花き産業(生産者、輸送業者、市場、小売業者)は経済取引規模(最終購入者価格)で約9400億円となっており、酪農と同程度となっている。また、他産業では運動用品が同程度である。

花き作付面積は、全農業作付面積の0.8%にあたる3万6千haにすぎないが、花き生産従業員数は、全農業生産従業員数の7%にあたる24万6千人、花き産出額は、農業総産出額の5.9%にあたる4千8百億円となっている。

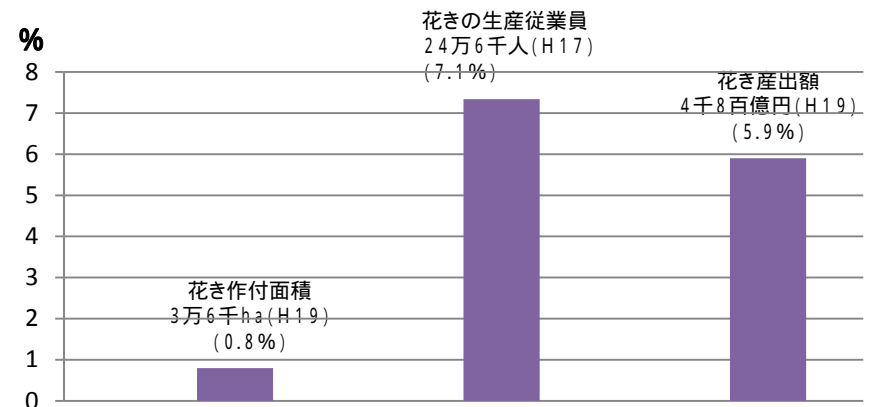
花き産業の規模

(単位:億円)

区分	産出額	最終購入者価格
花き・花木類	4,710	9,412
酪農	9,684	10,591
製造業	清酒	7,058
	建設用木製品	9,320
	パルプ	7,207
	運動用品	9,698
サービス業	写真業	6,307
果実	7,557	16,026
野菜	20,355	34,532

資料:総務省統計局「平成17年産業連関表(基本分類表)」

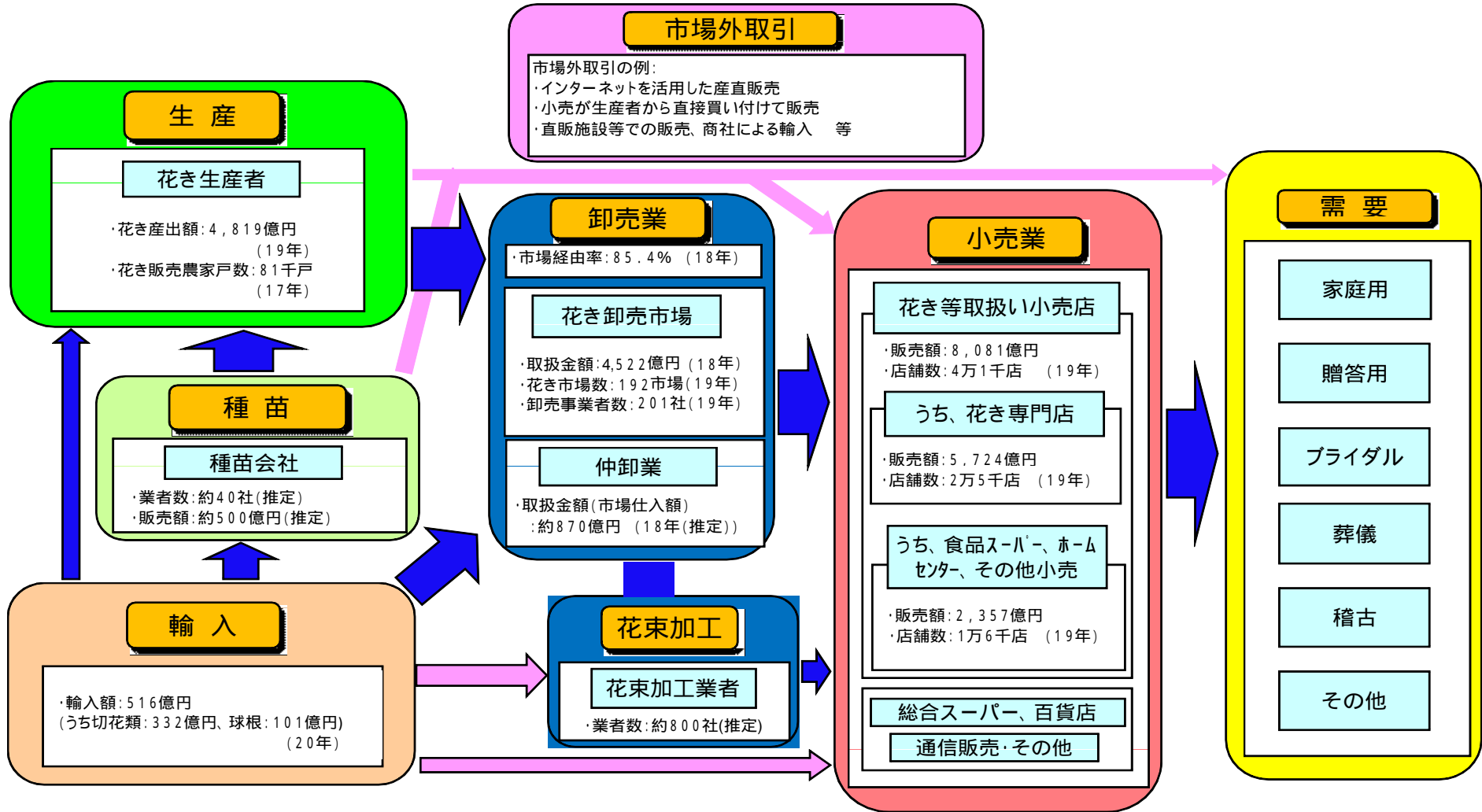
農業における花き産業の地位



資料:農林水産省統計部「花木等生産状況調査」、「耕地及び作付面積統計」、「2005農林業センサス」、「生産農業所得統計」
注:下段の()内は、全農業に対する割合

3 花きの流通経路

花きの流通は、全国の産地から卸売市場に花きが集められ、価格形成後、仕入れた花きを小売店が実需者・消費者に販売する方法が中心。市場経由率は約85%。

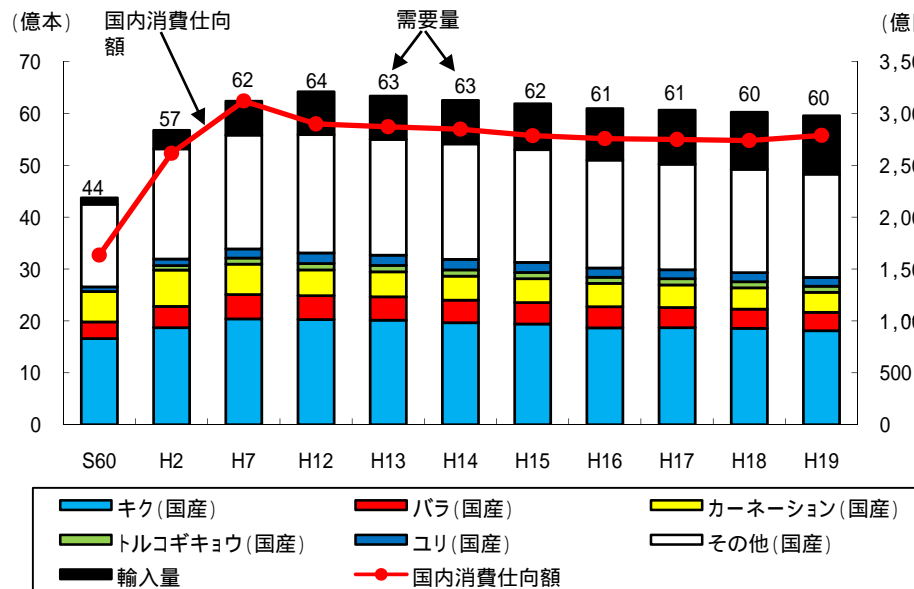


資料:財務省「日本貿易月表」、経済産業省「商業統計」、農林水産省「農林業センサス」、
「花き生産出荷統計」、「生産農業所得統計」、農林水産省生産局生産流通振興課及び総合食料局流通課調べ

4 需給状況(1)

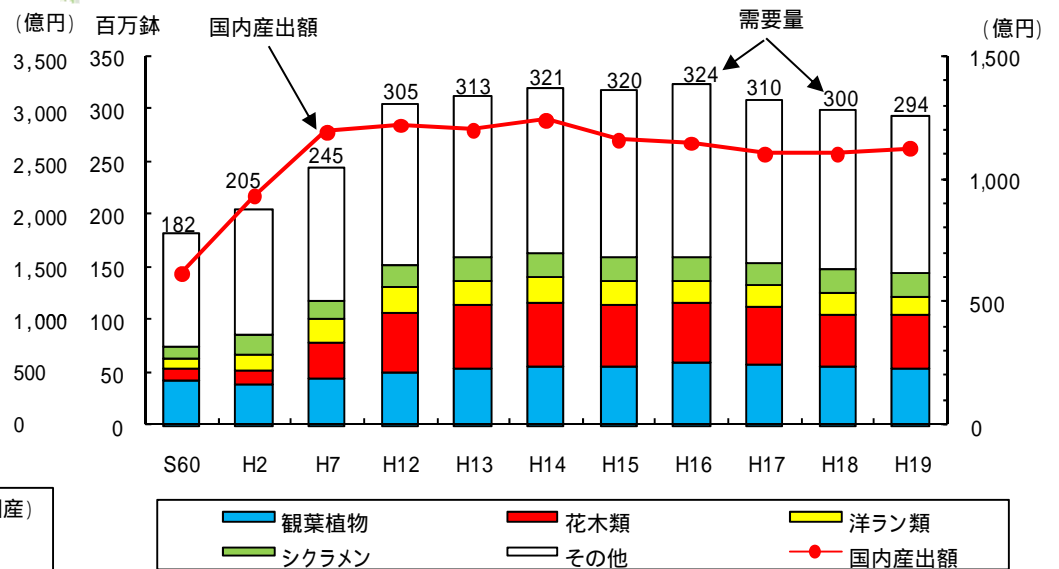
切り花類の需要は、景気低迷の影響等からキク、カーネーションなどの主品目を中心に近年横ばいないし微減傾向。
鉢ものの類の需要は、平成16年までは増加傾向にあったが、平成17年より減少へ。

切り花類の需要量及び国内消費仕向額の推移



(資料)農林水産省統計部「花き生産出荷統計」、「生産農業所得統計」
生産局(農産園芸局)「花き類の生産状況等調査」、「花木等生産状況調査」
植物防疫所「植物検疫統計」
注 需要量 = 国内生産量 + 輸入量 国内消費仕向額 = 国内産出額 + 輸入額としている。
S60とH2は農産園芸局「花き類の生産状況等調査」の数値。
年産区分は、H18までは主たる出荷期間、H19から暦年としている。

鉢ものの類の需要量及び国内産出額の推移



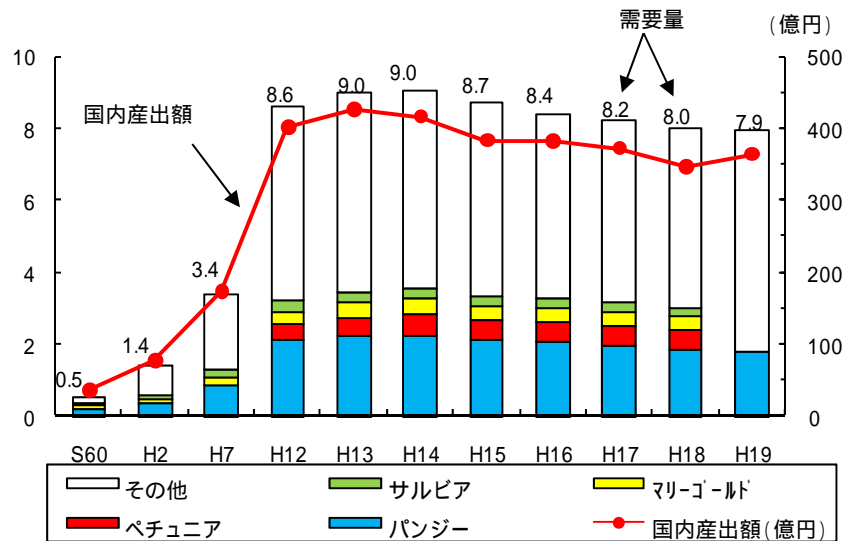
(資料)農林水産省統計部「花き生産出荷統計」、「生産農業所得統計」
生産局(農産園芸局)「花き類の生産状況等調査」、「花木等生産状況調査」
注 鉢ものの類の輸入量は全体と比較して少量と見られ、数量の把握も困難であるため、ここでは需要量 = 国内生産量としている。
S60、H2は農産園芸局「花き類の生産状況等調査」による。
年産区分は、H18までは主たる出荷期間、H19から暦年としている。

4 需給状況(2)

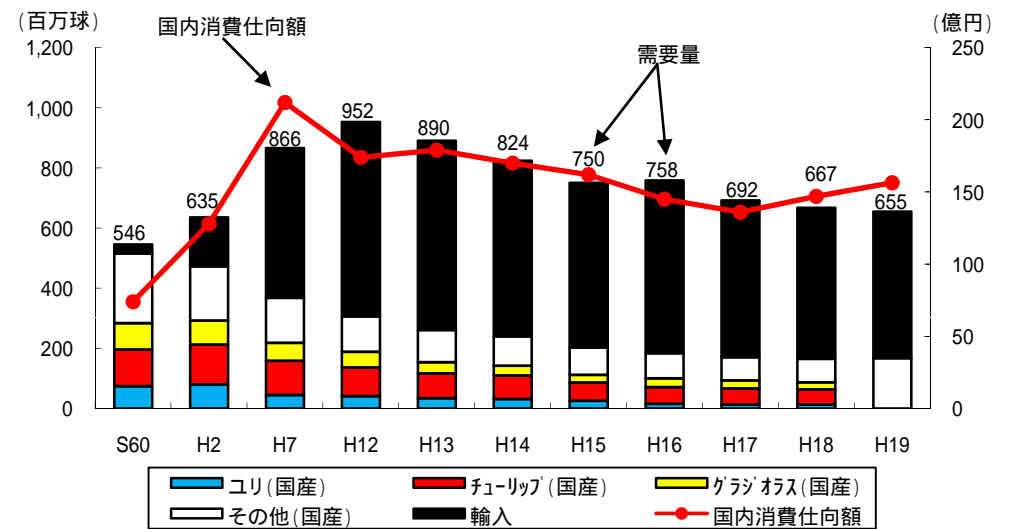
花壇用苗ものの類の需要は、ガーデニングの普及・定着により増加していたが、近年微減傾向。
球根類の需要は、消費者ニーズの多様化等により、平成12年より減少傾向。



花壇用苗ものの類の需要量及び国内産出額の推移



球根類の需要量及び国内消費仕向額の推移



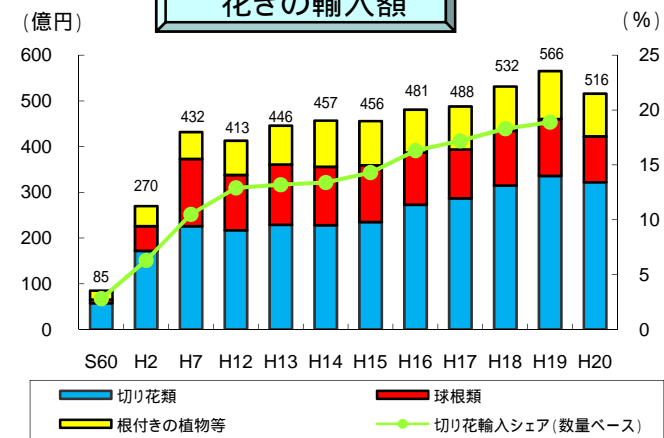
(資料)農林水産省統計部「花き生産出荷統計」、「生産農業所得統計」
生産局(農産園芸局)「花木等生産状況調査」
注 花壇用苗ものの類の輸入量は全体と比較して少量とみられ、数量の把握も困難であるため、ここでは需要量 = 国内生産量としている。
S60、H2は農産園芸局「花き類の生産状況等調査」による。
年産区分は、H18までは主たる出荷期間、H19から暦年としている。
H19からペチュニア・マリーゴールド・サルビアは「その他」に含まれている。

(資料)農林水産省統計部「花き生産出荷統計」、「生産農業所得統計」
生産局(農産園芸局)「花木等生産状況調査」
植物防疫所「植物検疫統計」
注 需要量 = 国内生産量 + 輸入量 国内消費仕向額 = 国内産出額 + 輸入額としている。
S60、H2は農産園芸局「花き類の生産状況等調査」による。
年産区分は、H18までは主たる出荷期間、H19から暦年としている。
H19からユリ・チューリップ・グラジオラスは「その他(国産)」に含まれている。

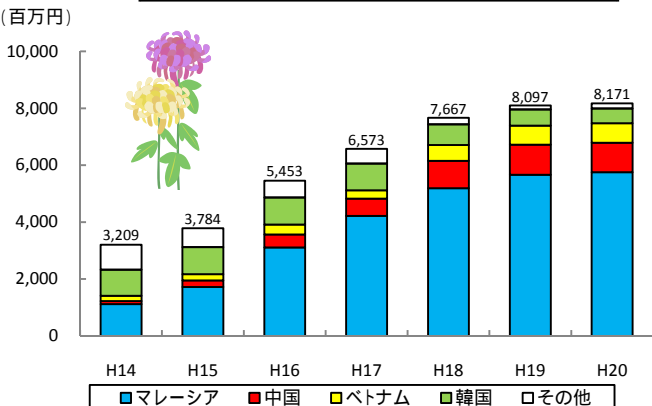
5 輸入及び輸出の状況(1)

花きの輸入は、切り花類及び球根類が大部分。近年、切り花類は、価格の安さ、大量提供、輸入業者による個別ニーズにも対応したきめ細かな花き供給等により増加傾向で推移し、切り花の輸入シェア(数量ベース)は平成19年現在19%。
 主な輸入相手国は、キクはマレーシア、ランはタイ、カーネーションはコロンビア、バラはインド・ケニア、ユリは韓国。

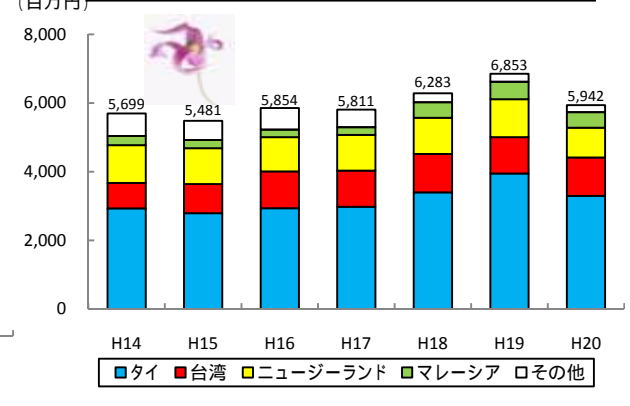
花きの輸入額



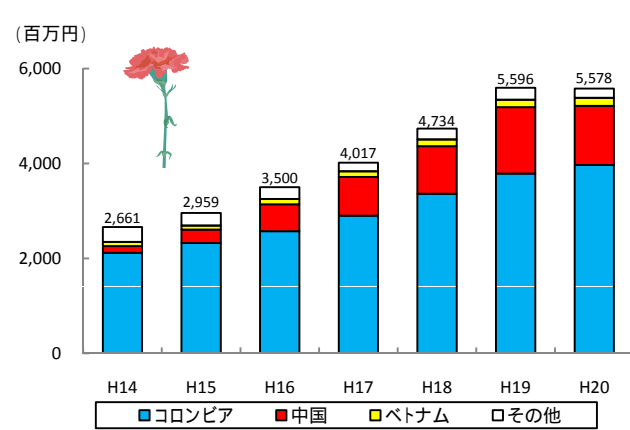
キク(切り花)の輸入額(国別)



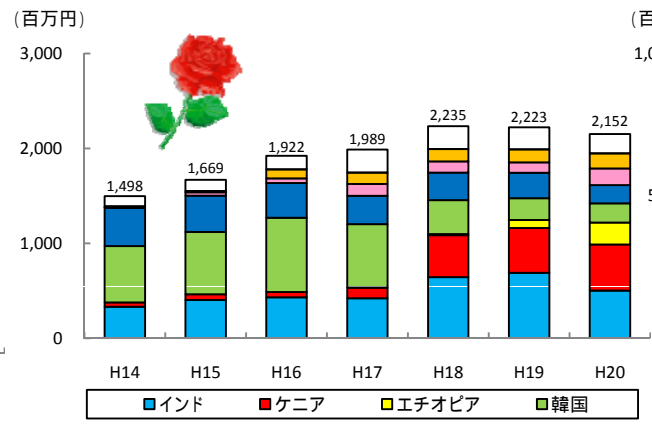
ラン属(切り花)の輸入額(国別)



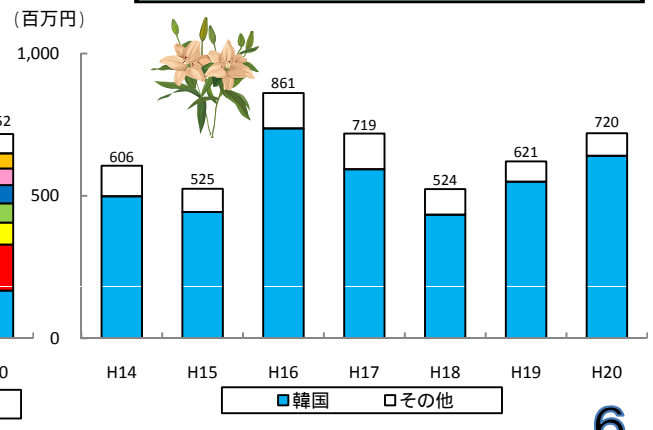
カーネーション(切り花)の輸入額(国別)



バラ(切り花)の輸入額(国別)



ユリ属(切り花)の輸入額(国別)



資料:財務省「貿易統計」

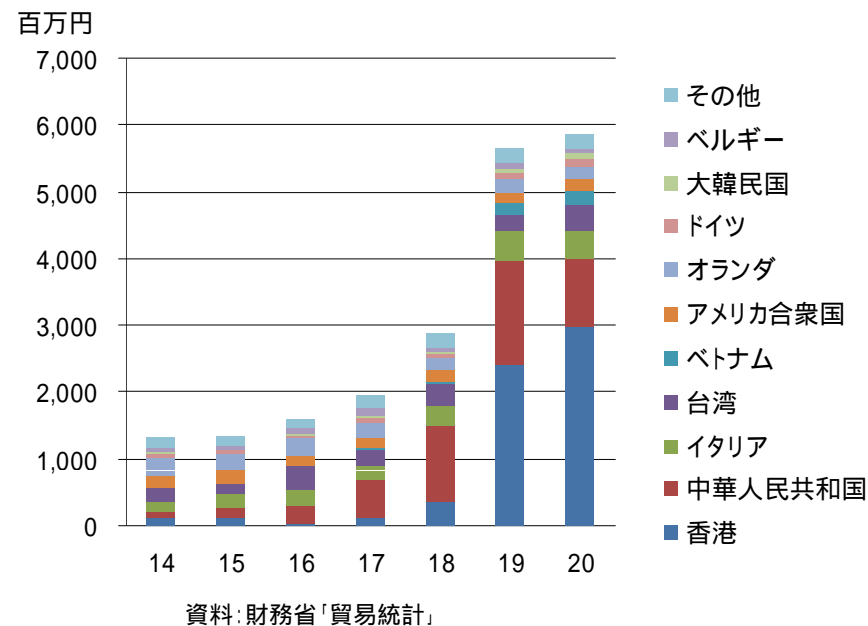
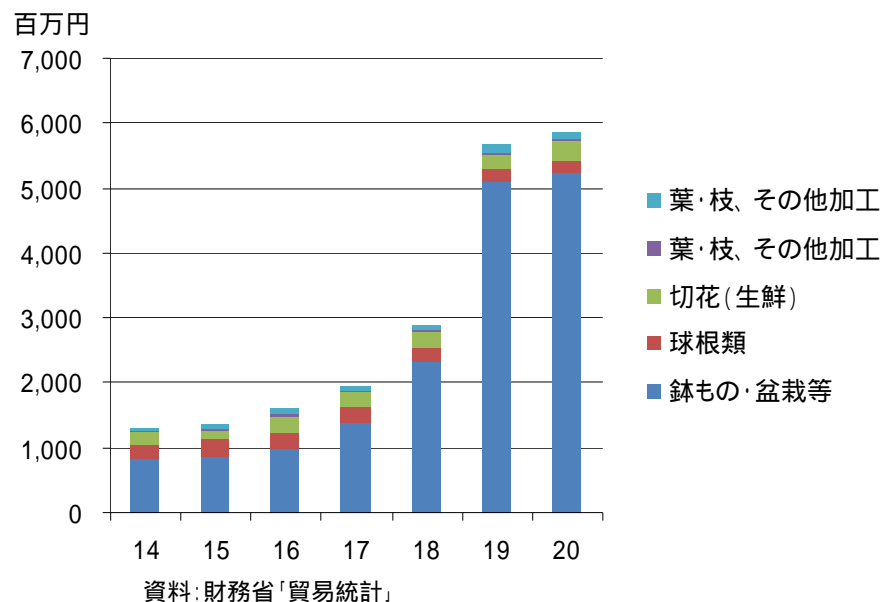
5 輸入及び輸出の状況(2)

花きの輸出は、鉢もの・盆栽・植木類を中心に、近年、大幅に増加。平成19年は対前年の2倍に。特に、急速な経済発展に伴う中国における植木、緑化木等に対する需要拡大等を背景に、香港、中国向けが急増。

花きの輸出額の推移



主要国別花きの輸出額の推移



6 生産の状況(1)

花きの販売農家数は、8万1千戸(総販売農家数の4.1%)で、花きの生産従業員数は、24万6千人(主に農業に従事する総農業者数の7.1%)となっており両方とも減少傾向。核となる花き単一経営の認定農業者数は、平成16年までは増加傾向にあったが、その後横ばい。
農業総産出額に占める花きの主業農家のシェアは、87%と他の品目に比べて高いシェア。

販売農家数の推移

区 分	H2	7	12	17
花き販売農家数(千戸)	127	110	88	81
(総販売農家数に占める比率)	4.3%	4.1%	3.8%	4.1%
花き生産従業員数(千人)		330	278	246
(主に農業に従事する総農業者数に占める比率)		8.0%	7.1%	7.1%

資料:統計部「農林業センサス」、ただしH2については、花きの区分がないため不明

販売農家:経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家



認定農業者数の推移

区 分	H9	12	13	14	15	16	17	18	19	20
認定農業者数	98,232	145,057	149,931	162,791	171,746	182,345	191,633	200,842	228,593	239,286
花き	7,486	11,238	11,696	12,474	13,031	13,848	14,224	14,001	14,214	14,313
うち単一経営	4,676	7,194	7,127	7,569	7,944	8,223	7,995	8,052	8,123	8,337

資料:経営局「農業経営改善計画の営農類型別認定状況」

注1:各年3月末現在の認定農業者数

花きの認定農業者数は、花きの単一経営及び準単一複合経営の認定農業者の合計

認定農業者:農業経営基盤強化促進法に基づき、自らの農業経営を計画的に改善しようとする者が農業経営改善計画を作成し、市町村から当該改善計画の認定を受けた者

品目別にみた農業総産出額の農家類型別シェア(平成17年)

農業総産出額 85千億円(100%)

品目	農業	構成比	農家類型別シェア(%)		
	産出額	(%)	主業農家	準主業農家	副業的農家
	(千億円)		38%	24%	37%
米	20	23			
麦類	2	2	76	9	15
豆類	1	1	76	9	15
いも類	2	2	83	9	9
工芸農作物	3	4	85	7	9
野菜	20	24	82	8	11
果樹	7	8	67	16	18
花き	4	5	87	8	5
酪農	7	8	95		2
肥育牛	5	6	92		3
豚	5	6	92		2
その他	10	12			

資料:農林水産省「生産農業所得統計」、「2005年農林業センサス」、「経営形態別経営統計(個別経営)」

注1)主副業別シェアについては、「2005年農林業センサス」、「経営形態別経営統計(個別経営)」より推計。

注2)「その他」には、農業産出額シェアの小さい複数の品目が含まれるため、主副業別シェアは示していない。

注3)17年の産出額は概数値。

主業農家:農業所得が主(農家所得の50%以上が農業所得)で、1年間に60日以上自営農業に従事している65歳未満の世帯員がいる農家
準主業農家:農業所得が主(農家所得の50%未満が農業所得)で、1年間に60日以上自営農業に従事している65歳未満の世帯員がいる農家
副業的農家:1年間に60日以上自営農業に従事している65歳未満の世帯員がいない農家

6 生産の状況(2)

花きの産出額は、4千8百億円(農業総産出額の5.9%)で、切り花の輸入増加、栽培農家の減少等を背景に、平成10年頃をピークに全品目を通じて減少傾向。
 花きの作付け面積は、3万6千ha(全耕地面積の0.8%)で、平成10年頃をピークに花木類、切り花類を中心に減少傾向。

産出額の推移

区分	S60	H2	7	12	13	14	15	16	17	18	19
花き産出額 (農業総産出額に占める比率)	4,145 3.6%	5,573 4.8%	6,233 6.0%	5,867 6.4%	5,714 6.4%	5,706 6.4%	5,470 6.2%	5,209 6.0%	4,997 5.9%	4,802 5.8%	4,819 5.9%
切花類	1,577	2,444	2,894	2,682	2,643	2,621	2,551	2,485	2,462	2,424	2,451
鉢もの類	612	930	1,194	1,219	1,199	1,242	1,159	1,146	1,104	1,104	1,124
花壇用苗もの類	36	77	174	400	426	416	383	382	372	347	364
花木類	1,751	1,832	1,679	1,371	1,256	1,242	1,179	1,009	892	771	734
球根類	66	74	65	53	47	42	38	31	29	27	32
芝	81	176	174	87	89	90	97	87	80	77	64
地被植物類	22	39	53	55	54	53	63	69	59	52	50

資料: 統計部「生産農業所得統計」、生産局(農蚕園芸局)「花き類の生産状況等調査」、
 「花木等生産状況調査」

作付面積の推移



区分	S60	H2	7	12	13	14	15	16	17	18	19
花き作付面積 (全耕地面積に占める比率)	36.2 0.6%	45.7 0.9%	48.4 1.0%	45.5 1.0%	44.5 1.0%	43.5 0.9%	42.0 0.9%	40.2 0.9%	37.9 0.8%	36.8 0.8%	35.6 0.8%
切花類	13.1	16.6	19.0	19.7	19.4	19.1	18.7	18.3	17.9	17.5	17.2
鉢もの類	1.3	1.7	1.9	2.2	2.1	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.0
花壇用苗もの類	0.3	0.4	0.8	1.7	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7
花木類	14.8	16.1	15.0	12.4	11.8	11.7	11.0	9.6	8.5	8.0	7.5
球根類	1.5	1.5	1.2	1.0	0.9	0.8	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6
芝	5.1	9.2	10.5	8.4	7.5	7.1	7.6	7.7	6.9	6.8	6.5
地被植物類	0.0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
露地	9.3	10.9	11.2	11.4	11.2	11.4	10.7	10.4	10.2	10.0	...
施設	5.4	7.9	10.4	12.1	12.1	12.1	11.9	11.8	11.6	11.4	...

資料: 統計部「耕地及び作付面積統計」、「花き生産出荷統計」、
 生産局(農蚕園芸局)「花き類の生産状況等調査」、「花木等生産状況調査」

注) 露地、施設の面積は、切花類、鉢もの類及び花壇用苗もの類の露地、施設面積の合計。

6 生産の状況(3)

切り花類の主要産県の産出額を見ると、愛知県が1位を維持している。昭和60年と比較して、平成19年において北海道、鹿児島県、岩手県の産出額が2倍以上増加している。

鉢ものの類の主要産県の産出額を見ると、愛知県が1位、埼玉県が2位を維持している。昭和60年と比較して、平成19年において、愛知県、静岡県、岐阜県、長野県、三重県、新潟県の産出額が2倍以上増加している。

切り花類の主要産県(産出額)										
億円										
	S60	H7		H12		H17		H19		H19/S60
愛知県	193	愛知県	424	愛知県	402	愛知県	400	愛知県	378	1.96
静岡県	120	長野県	193	千葉県	164	千葉県	145	千葉県	147	1.77
福岡県	115	千葉県	170	長野県	149	福岡県	144	福岡県	146	1.27
長野県	101	静岡県	155	静岡県	148	長野県	139	長野県	122	1.21
千葉県	83	福岡県	151	福岡県	145	静岡県	121	沖縄県	121	1.65
沖縄県	73	沖縄県	148	鹿児島県	123	鹿児島県	120	静岡県	115	0.96
兵庫県	68	和歌山県	114	沖縄県	114	沖縄県	118	北海道	114	6.70
熊本県	62	熊本県	100	北海道	96	北海道	106	鹿児島県	114	2.33
高知県	52	鹿児島県	95	熊本県	91	熊本県	77	熊本県	75	1.21
鹿児島県	49	北海道	91	和歌山県	77	和歌山県	61	岩手県	65	4.79

鉢ものの類の主要産県(産出額)										
億円										
	S60	H7		H12		H17		H19		H19/S60
愛知県	141	愛知県	274	愛知県	258	愛知県	287	愛知県	292	2.06
埼玉県	66	埼玉県	107	埼玉県	115	埼玉県	84	埼玉県	91	1.38
千葉県	44	静岡県	67	福岡県	62	静岡県	61	静岡県	67	3.26
福岡県	37	福岡県	55	静岡県	62	福岡県	54	福岡県	54	1.45
東京都	33	岐阜県	53	岐阜県	59	岐阜県	51	岐阜県	51	2.54
静岡県	21	千葉県	48	千葉県	48	鹿児島県	41	長野県	43	3.00
岐阜県	20	茨城県	46	新潟県	46	三重県	39	三重県	35	2.03
鹿児島県	19	三重県	42	長野県	40	新潟県	37	千葉県	34	0.78
群馬県	18	鹿児島県	41	三重県	40	長野県	37	新潟県	34	23.47
三重県	17	栃木県	37	鹿児島県	37	千葉県	32	鹿児島県	32	1.72

資料:農林水産省「生産農業所得統計」「花き類の生産状況等調査」
S60については「花き類の生産状況等調査」

7 流通の状況(1)

花き卸売市場は、中央と地方合わせて192市場。年間取扱金額は4500億円。
卸売価格は、切り花類、鉢ものの類とも横ばい傾向で推移。

花き卸売市場数の推移

	H2	H7	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
中央卸売市場	17	20	23	24	24	25	25	25	24	24
地方卸売市場	234	198	187	184	180	177	177	171	170	168
合計	251	218	210	208	204	202	202	196	194	192

資料：農林水産省総合食料局流通課調べ

注：中央卸売市場数は各年度の年度末現在、地方卸売市場数は各年度の4月現在である。

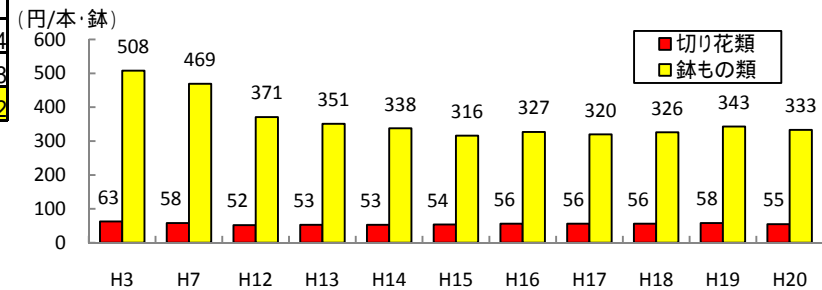
花き卸売市場の取扱高及び市場経由率の推移

単位：億円、%

	H2	H7	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
中央卸売市場	833	1,396	1,392	1,556	1,555	1,581	1,553	1,537	1,551
地方卸売市場	3,721	3,774	3,392	3,319	3,249	3,112	3,027	2,967	2,971
合計	4,554	5,170	4,784	4,875	4,804	4,693	4,580	4,504	4,522
卸売市場経由率	82.3	81.9	79.1	79.6	79.7	80.9	82.6	82.8	85.4
取扱高上位10業者のシェア	25.1	22.1	26.5	25.9	27.6	27.2	28.1	28.0	27.8

資料：(社)日本花き卸売市場協会「花き市場流通調査概要」、
農林水産省総合食料局流通課及び生産局生産流通振興課調べ

切り花類・鉢ものの類の卸売価格の推移



資料：農林水産省統計部「花き流通統計調査報告」

注：平成20年の卸売価格は速報値

7 流通の状況(2)

花き等取扱い小売業は約4万1千店、年間の販売額は約8000億円。スーパー、ホームセンターにおける販売が急増。
花きの小売価格に占める小売経費等は約6割。

花き等取扱い小売業の商店数及び花き等販売額

区分	事業所数(店)				販売額(百万円)			
	H6	H9	H14	H19	H6	H9	H14	H19
花き等専門小売店(注1)	22,776	22,246	23,019	21,255	633,542	636,665	590,781	521,510
花き等中心小売店(注2)	5,010	5,196	5,357	4,018	96,977	101,842	86,179	50,925
食料品スーパー	842	2,971	3,654	5,417	6,884	22,028	28,709	49,819
住関連スーパー(注3)	806	1,841	2,279	3,146	46,031	87,382	100,824	135,953
その他小売業	5,596	6,410	6,099	7,172	52,312	63,423	52,332	49,884
花・植木取扱小売業計	35,030	38,664	40,408	41,008	835,746	911,340	858,825	808,091

資料：経済産業省「商業統計表」

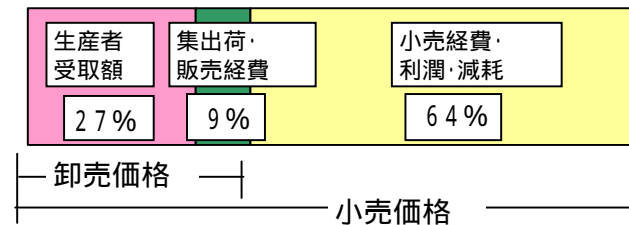
注1：花き等専門小売店は、店内取扱商品のうち90%以上が花、植木の店舗

注2：花き等中心小売業は、店内取扱商品のうち50%以上が住関連(花・植木を含む。)商品の店舗

注3：住関連スーパーには、ホームセンターを含む

注4：合計値(事業所数、販売額共)に百貨店・総合スーパーは含まれていない

花き流通における経費内訳



資料：農林水産省統計情報部「平成13年花き流通コスト事例調査結果」(試算)

注1) 花き全体(切り花、鉢もの、花壇用苗もの類)の平均の小売価格を100とした場合の各段階の経費等の割合。

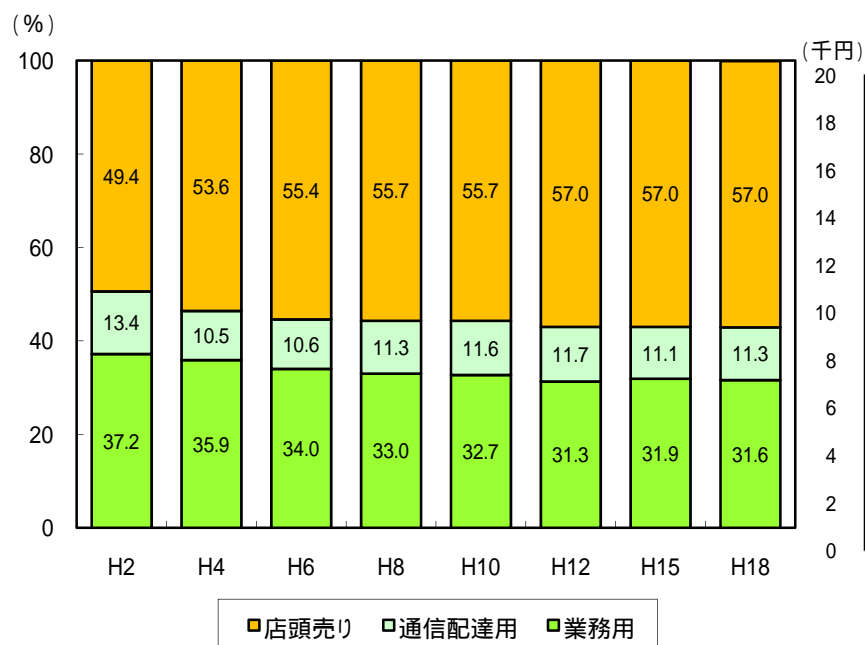
注2) 花きの流通経費は仲卸を通さない流通経路で計算している。

注3) 生産者受取額には、生産者の選別・荷造労働費を含む。

8 消費の状況(1)

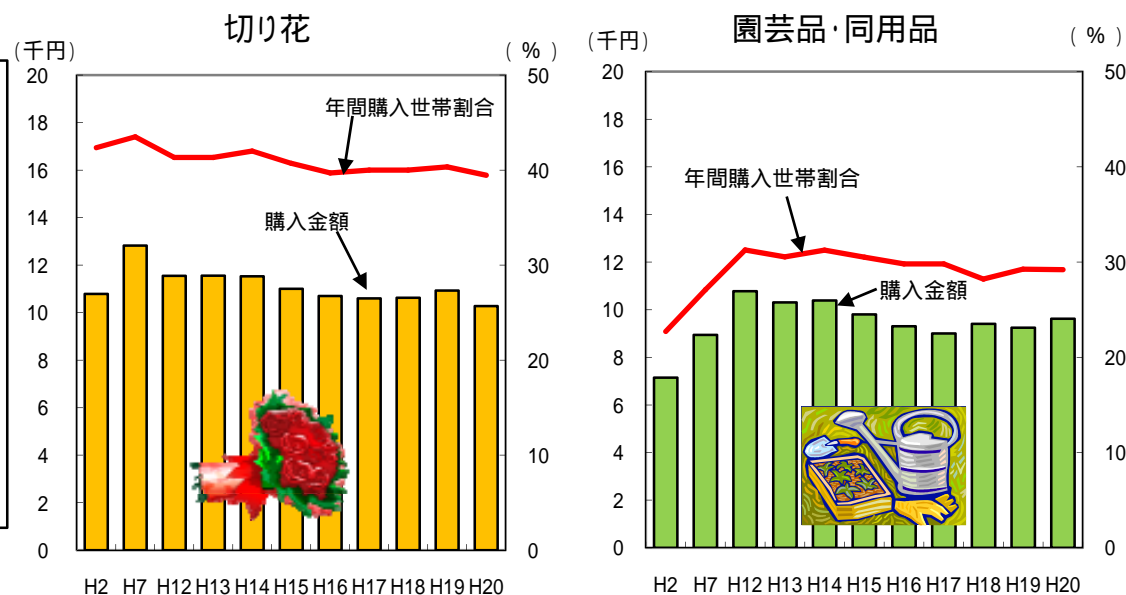
切り花の消費は、家庭用などの店頭売りが増加傾向にあったが、平成12年前後をピークに横ばいへ。
 切り花及び園芸品・園芸用品の1世帯当たりの購入金額は減少傾向にあったものの、近年は横ばい。
 切り花及び園芸品・園芸用品を1年間に1度も購入したことの無い世帯の割合は各々6割と7割。

切り花需要形態の推移



資料：農林水産省「花き需要別消費状況調査」
 注) 店頭売りは、家庭用、贈答用。業務用は冠婚葬祭用、稽古用等。

花きの世帯当たり購入金額及び年間購入世帯割合の推移

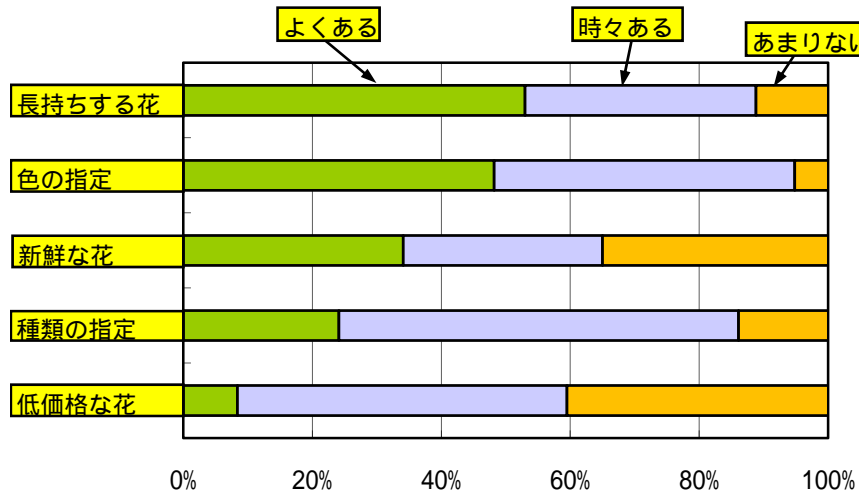


資料：総務省「家計調査年報：二人以上の世帯（農林漁家世帯を除く）」
 注1) 園芸品・園芸用品とは、鉢植えの植木、草花の種、肥料等
 年間購入世帯割合とは、1年間に1度も購入のあった世帯の割合
 注2) 1世帯当たりの人員は3.11人

8 消費の状況(2)

消費者は、日持ちの良い切り花や手頃な価格の花きを求める一方で、花の色や種類を指定するなど、そのニーズは多様化。
 消費者ニーズの変化に伴い、平成19年の流通量の多い品種が平成13年と比べて大きく変化。

消費者の切り花に関する要望



資料：日本生花通信配達協会「平成20年度」FTD白書



主要な花きの品種別流通動向

単位:本

品目名	順位	H13(4市場)		H19(12市場)			
		品種名	色	流通量	品種名	色	流通量
キク(リングク)	1	精興の誠	シロ	22,673,806	神馬	シロ	62,378,609
	2	神馬	シロ	15,595,049	精興の誠	シロ	26,512,040
	3	岩の白扇	シロ	14,328,796	岩の白扇	シロ	22,026,061
	4	秀芳の力	シロ	7,076,540	フローラル優香	シロ	12,937,570
	5	精興の秋	キイロ・クリーム	6,011,980	太陽の響	キイロ・クリーム	9,520,045
バラ(スタンダード)	1	ローテローゼ	アカ	7,894,773	ローテローゼ	アカ	7,528,907
	2	ノブレス	ピンク・サーモンピンク	2,915,566	ティネケ	シロ	3,417,362
	3	ティネケ	シロ	2,778,946	ノブレス	ピンク・サーモンピンク	2,665,957
	4	パレオ90	オレンジ・アプリコット	2,206,526	スタンダード(ソノタ)	ソノタ	2,286,498
	5	バラ	ソノタ	2,074,876	テレサ	ピンク・サーモンピンク	2,095,554
ユリ(オリエンタル)	1	カサブランカ	シロ	3,067,316	シベリア	シロ	4,913,913
	2	ソルボンヌ	ピンク・サーモンピンク	1,951,720	ソルボンヌ	ピンク・サーモンピンク	4,722,357
	3	シベリア	シロ	1,405,742	カサブランカ	シロ	4,008,101
	4	ルレーブ	ピンク・サーモンピンク	931,505	アクティバ	ピンク・サーモンピンク	1,000,218
	5	マルコポーロ	フクシヨク	595,179	ルレーブ(=ジョイ)	ピンク・サーモンピンク	745,459
カーネーション(スタンダード)	1	フランススコ	アカ	5,842,615	マスター	アカ	10,799,995
	2	ジュリエットローズ	ピンク・サーモンピンク	2,244,702	ネルソン	アカ	4,199,173
	3	ピンクフランススコ	ピンク・サーモンピンク	2,180,730	フランススコ	アカ	3,649,040
	4	ノラ	ピンク・サーモンピンク	1,922,480	エクセリア	アカ	3,022,385
	5	エクセリア	アカ	1,772,785	シルクロード	シロ	2,790,601

資料:日本花き取引コード普及促進協議会「花きの品種別流通動向分析について」

注1)平成19年は12市場、平成13年は4市場が調査対象

注2) は、H13年に順位5位までのランクになく、H19年に順位5位内に入った品種

注3) 品種名の前に「」がついているものは、輸入ものなどで品種が特定されず流通されているもの

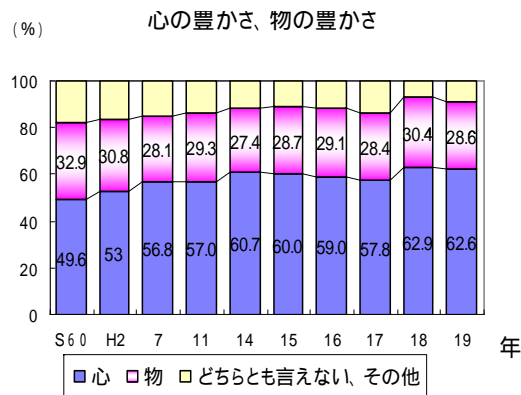
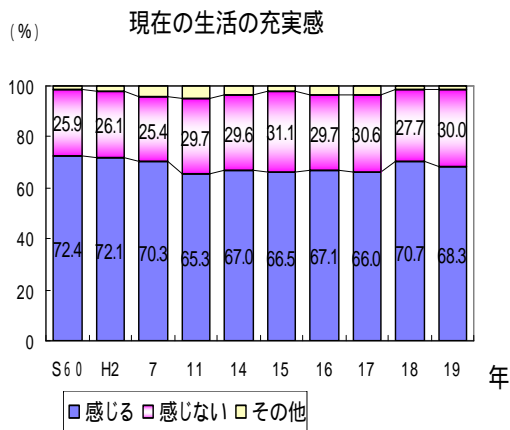
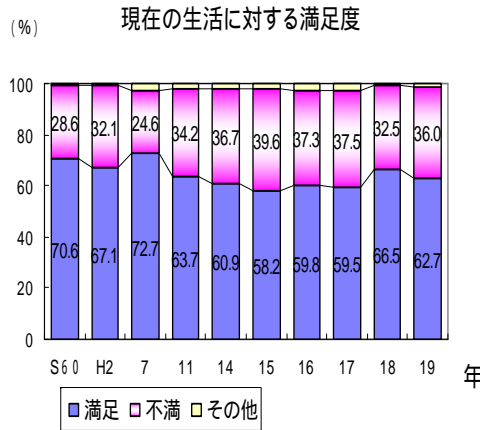
もの

施策の方向

1 花を暮らしに取り込む活動の推進(1)

現在の生活について、不満を感じる人や充実感を感じない人の割合が3割以上。また、心の豊かさ、ゆとりが重視される中、花きの重要性は高まると期待。

国民の生活に関する意識



資料：内閣府「国民生活に関する世論調査」
 注)「心の豊かさ」：物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活することに重きをおきたい
 「物の豊かさ」：まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい。

花の効用

生活空間を飾る

(フラワーデザイン、生け花、盆栽、寄せ植え等)

気持ちを伝達する

(母の日、花言葉、故人を表敬する仏花)

快適環境を創造する

(屋内緑化、景観形成、都市緑化、屋上・壁面緑化等)

人を繋ぎ、コミュニティを創造する

(花のまちづくり、オープンガーデン活動、園芸博覧会等の花きイベント、フラワーツーリズム等)

福祉を増進する

(花き園芸福祉、科学・情操教育等)



農林水産省「花き産業振興方針(H17.3)」より

1 花を暮らしに取り込む活動の推進(2)

花きを取り入れた潤いのある生活の実現のため、花きの普及・啓発が必要。
消費者ニーズの多様化を踏まえ、花き業界はニーズに応えた適切なサービスを提供することが必要。

花きを取り入れた潤いのある生活実現に向けた取組

1. 花のあるライフスタイルの提案

・若年層や40歳代男性等の無購買層をターゲットに、「花にまつわるちょっといい話」を公募し、選定された最優秀作品のPRポスター等を作製し、東京・大阪の地下鉄車内等に掲示。【写真1】
・「花にまつわるちょっといい話」のミニブックを作成し、消費者等に配布。

2. ジャパンフラワーフェスティバル

・我が国最大級の花きのイベントとして毎年度開催。
平成21年度は4月21日～26日に東京・丸ノ内エリアで開催。
(丸ノ内フラワーウィークスと同時開催)【写真2】

3. 花のまちづくりコンクール

・毎年、花を用いて美しい、潤いのある生活環境の創出に取り組む個人、団体等を広く顕彰。(農林水産大臣賞、国土交通大臣賞等を授与)【写真3】

4. 花きの普及啓発資料の作成・配布

・花き業界統一のシンボルマークとコミュニケーション・ワードを策定し(平成18年)、ステッカー等の配布など「花っていいよね。キャンペーン」による普及啓発活動を実施。
・19年度からは、花き業界が中心となり取組を実施。



5. 花育活動の推進

・幼児や児童等が花きに触れることで、やさしさや美しさを感じる気持ちを育む「花育活動」を推進。
・花き業界や都市緑化関係者が中心となった「全国花育活動推進協議会」を創設(平成20年3月)。【写真4】

消費者ニーズに応えるための民間の取組

1. 鮮度保持のため品質管理の高度化を徹底(流通段階の取組)

・花の鮮度保持のため、バケツで入荷した切り花を低温倉庫に保管したまま、取引は画像を介して行うことで、外気に接触せず取引を行うことも可能にするなど、品質管理の高度化を徹底。(愛知豊明花き地方卸売市場)

2. 生活シーンに合わせた花の楽しみ方を提案(小売段階の取組)

・パリのマルシェ(市場)を模した店舗を首都圏を中心に出店し、リビングブーケ、ダイニングブーケ等で生活シーンに合わせた花の楽しみ方を提案。また、切り花以外にハサミ等のオリジナル商品を販売。((株)パークコーポレーション(青山フラワーマーケット))

3. 価格を常時一定にした花き販売(小売段階の取組)

・花きのロス率を年間平均で10%以下に抑えて、価格を常時一定にした花き販売を実現。また、鮮度を前面に出し花持ちを保証。((株)ブルーミスト(オランダ屋))



写真1

写真2

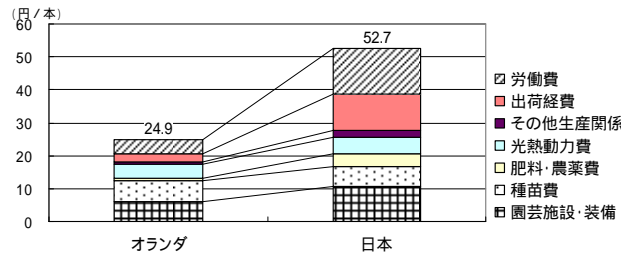
写真3

写真4

2 競争力強化に向けた花き産地の生産供給体制の確立(1)

我が国の花き生産の競争力を強化していくためには、省力多収栽培技術の導入、作業の機械化・自動化による省力化、低コスト耐候性ハウスの導入による施設・設備費の低減等を図ることが必要。

スプレーギク生産コストの日蘭比較(切り花1本当たり)



資料 日本:愛知県事例(H14)
オランダ: Groenten-suijbloemen-potplanten 'kwantitatieve Informatie voor de Glatuinbouw' (H12)

主な低コスト生産の方法

単収の増加

- ・ホームコース用短茎多収生産技術の導入
- ・省力化
- ・共同育苗施設の導入による育苗の省力化・種苗コスト低減
- ・養液土耕栽培の導入による肥料費等の低減
- ・ムービングベンチ、自動給水システム等省力化施設の導入による栽培管理労力の低減

施設・設備費の低減

- ・低コスト耐候性ハウス、超低コスト耐候性ハウスの導入



(養液土耕栽培)



(ムービングベンチ)



(低コスト耐候性ハウス)

経営部門別の収益性・労働時間の比較

部門	1戸当たりの粗収益 (千円)	1戸当たりの農業所得 (千円)	作付面積10a当たり農業所得 (千円)	家族農業労働時間1時間当たり所得 (千円)	1戸当たりの営農労働時間	
稲作部門	1,293	224	20	663	359	
麦類作部門	2,137	630	21	2,647	246	
野菜	施設部門	7,401	3,192	790	883	4,136
	露地部門	3,251	1,502	185	697	2,265
果樹	みかん部門	3,372	1,217	154	701	1,900
	りんご部門	4,127	1,766	173	744	2,792
花き	施設部門	10,861	3,130	794	778	5,127
	露地部門	4,380	2,213	312	874	2,934

資料: 農業経営統計調査 平成19年 個別経営の営農類型別経営統計

地方の自主性・裁量性を高めた「強い農業づくり交付金」や新たに開発された革新技術・品種等を導入するための「未来志向型技術革新対策事業」により支援

2 競争力強化に向けた花き産地の生産供給体制の確立(2)

国産花きが安定的な需要を確保するためには、高品質や個性的なものを求める消費者ニーズに応じて付加価値を高め、差別化やブランド化を推進することが必要。
このため、日持ちの良い花きの供給に有効な湿式低温流通の導入、新規性の高いオリジナル品種の開発・導入、産地表示の推進、生産・出荷者と小売業者等との連携強化等を推進。

差別化やブランド化を推進するための主な取組

日持ちの良い花の供給

- ・バケット等による湿式低温流通の導入
- ・日持ち・鮮度の良さをアピールした販売
- オリジナル品種の開発・導入**
- ・ジャパンフラワーセレクションでの新品种の評価、入賞品種のPR
- 花きにおける産地表示**
- ・「花きにおける産地表示のガイドライン」の普及
- 生産・出荷者と小売業者等との連携**
- ・花き生販連携促進交流大会の開催【写真1】
- ・小売りの持つ消費者ニーズに対応した品目・品種の選定(生産側)
- ・品種の特長等生産情報を活かした飾り方等の消費者への提案(小売り側)



写真1

バケット等による湿式低温流通の出荷状況

(単位:百万本、%)

年次	切り花		うちバラ	
	湿式低温流通量	湿式低温流通率	湿式低温流通量	湿式低温流通率
14年	106.2 (56.5)	2.0% (1.0%)	60.0 (34.6)	13.8% (7.9%)
15年	142.9 (75.5)	2.7% (1.4%)	69.2 (39.4)	16.7% (9.5%)
16年	215.0 (96.7)	4.2% (1.9%)	122.9 (51.3)	30.2% (12.6%)
17年	247.5 (109.8)	4.9% (2.2%)	139.1 (59.3)	35.6% (15.2%)
18年	315.7 (137.4)	6.4% (2.8%)	148.5 (64.9)	40.0% (17.5%)
19年	332.8 (135.9)	6.9% (2.8%)	166.8 (67.1)	46.8% (18.8%)



資料:農林水産省及び(社)日本花き卸売市場協会調べ
注1) 上段は再利用タイプとワンウェイタイプを含めた湿式輸送の合計。
注2) ()は、再利用タイプによる流通量。

花きの新品种登録件数等の状況

年 度	14	15	16	17	18	19
新品种登録件数(件)(草花類及び鑑賞樹)	894	590	897	933	986	1,209
日本花き取引コード新規登録件数(件)	3,603	8,940	4,045	3,265	3,138	2,456

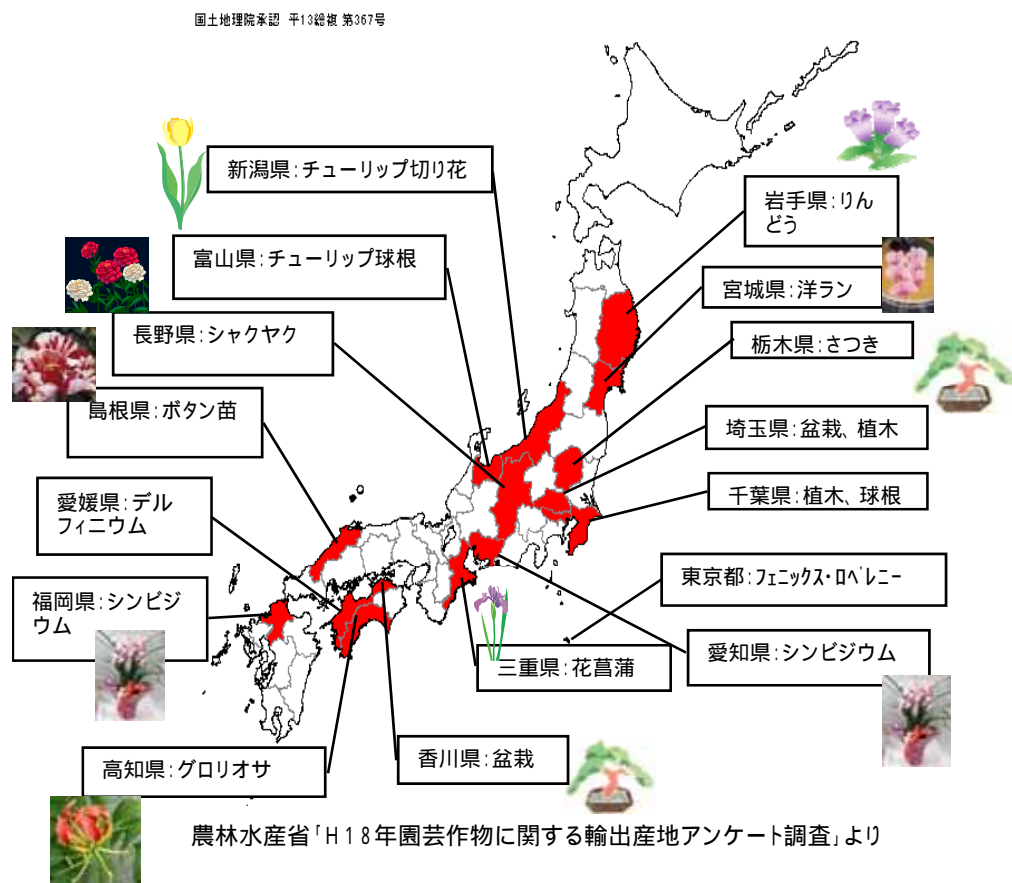


資料:農林水産省種苗課調べ及び日本花き取引コード普及促進協議会「日本花き取引コード」
注)「日本花き取引コード」は、花き流通の大型化・広域化、販売の多様化等に対応するため、国内で流通している花きの品種に対し、5桁のコード番号を割り当て、迅速な物流、事務処理の効率化等花き流通の合理化を図るものである。通常、生産者等は、市場に新品种を出荷するに当たり、日本花き取引コードにその品種を新規登録する。

2 競争力強化に向けた花き産地の生産供給体制の確立(3)

アジア諸国における富裕層の増加等花きの輸出機会は増加。このようなチャンスを捉え、「攻め」の姿勢で、「農林水産物等の輸出額を平成25年度までに1兆円規模」の目標達成に資するため、花きの輸出を強力に推進。

花きの輸出事例



花きの輸出拡大のための主な取組

産地・業界関係者輸出意欲の向上

- ・民間主体の全国組織として「全国花き輸出拡大協議会」を立ち上げ(平成19年9月27日設立)

相手国や海外の有用情報収集

- ・各種調査の実施
- ・セミナー等の開催

効果的なPR活動の実施

- ・展示・商談会の実施(平成21年1月29日~2月1日にドイツのエッセンで実施) [写真1, 2, 3]

高品質・安定的輸出体制の強化

- ・切り花の遠距離輸送技術の開発など



写真1



写真2



写真3